

◆「SIAの理念」「プロとしての指導者の心得」「事業目的と計画の方針」について

- ◆ SIAの理念 ⇒ 会員の行動規範となるもの
- ◆ プロとしての指導者の心得 ⇒ プロ意識を持って教師活動の際の規範となるもの
- ◆ 事業目的と計画の方針 ⇒ 協会が目指す方向と事業目的を達成するための主となる項目

◆ SIAの組織としての前提

1. プロスノースポーツ教師の団体
2. 行動指針はSIAの理念
3. 組織の目標は定款の事業目的

◆ 第40期事業計画の方針

SIAはプロスノースポーツ教師の集団であり、プロとしての指導活動が原点である。

スノースポーツ愛好者に「安全にスノースポーツを楽しむ為」に技術力の向上、指導法を練磨し、大自然と共存することが、協会の維持発展とスノースポーツの普及に繋がると考える。

近年、あらゆる所で訪日観光(インバウンド)への対応が増えつつあり、様々なお客様のニーズに合わせたサービスを提供していただける学校経営が求められている。

その中でもいかにプロとして、プライドを持って指導にあたる事が、一流のサービスに繋がって行き、教師一人一人の質を向上して行く事で、各学校並びに協会の大きな力と財産になって行く。

又、スノースポーツの安全確保には公認学校の存在が不可欠である。

40期も、協会の原点を大切に「プロスノースポーツ教師の集団」であるということをつまみ、次の5項目を事業計画の方針とする。

- I. 資格制度の見直し及び研修会参加率増への取り組み
- II. 少子高齢化社会に向けての対応と取り組み
- III. プロスノースポーツ教師として誇りを持って仕事を続けられる組織と環境づくり
- IV. 国際環境の変化に対応する取り組み
- V. スノースポーツの普及

◆ 第40期事業計画の方針の具体的な目標

I. 資格制度の見直し及び研修会参加率増への取り組み

我々を取り巻く環境の変化と未来への備えとして、現行制度からの改正を行う。

現在、受講者の約65%が初心者から初級者までとなっており、現行のステージI合格に求めるレベルは高く、入口を入り易くする事で需要のある層への対応や、今後インバウンド対応として外国人を会員として受け入れる必要性が出てきている。

その様な取り組みのために、新資格制度を導入する。

研修会参加率増については、会員の地域性や年齢別、性別、目的別など様々な要望に応じた内容の設定を提案し、参加意欲の向上を図る。

II. 少子高齢化社会に向けての対応と取り組み

過去3年間の会員の平均年齢が、44.5歳から48.1歳に⇒10年後の予想は55歳以上と予想される。

学校経営においても少子高齢化の波は消せず、大きな問題となっている現状、より新たな会員の入会や予備軍の育成が必須となっており、様々な対応を行う。

III. プロスノースポーツ教師として誇りを持って仕事を続けられる組織と環境づくり

- 1) ガバナンスが確立され、健全な財務体質の組織をつくる
- 2) 会員がプロ意識を持って質の向上を常に心掛ける
- 3) 会員が質に見合う待遇が得られる
- 4) スノースポーツの素晴らしさ、楽しさ、健康に良い事を国民に告知する
- 5) スノースポーツ普及を推進しているのがSIAであることを常に告知する

IV. 国際環境の変化に対応する取り組み

スノースポーツのインバウンドが増加している中で、国土交通省 観光庁、(一財)日本鋼索交通協会、(公社)日本プロスキー教師協会(SIA)、(公財)全日本スキー連盟(SAJ)において三者協議のもと、ワーキンググループを設置し、インバウンド対応を含めた健全なスノースポーツの発展を、行政や関係団体に対して必要

な陳情及び提言をして行き、共通のルールを構築しスノースポーツ発展に寄与して行く為に、

1. 昨年同様引き続き、研修会を実施する。
2. 一昨年より I S I Aカード所持者も労働ビザ発給要件となったが、更に緩和を陳情する。
 - ・延べ12ヶ月で可とする。
 - ・ISIAスタンプ保持者も対象に。国への働きかけの為に、昨年6月19日(月)にSAJ/日本鋼索交通協会と協議の場を持ち、3団体総意の形で陳情を進める。
3. 同上協議の際に「国内ではS I AもしくはSAJ公認校加盟への義務づけ」を進めている。
4. 昨シーズンまでは「各国間による原則の維持」の元、日本人は対象から外すように諸外国に依頼している。今後は「新ステージIの英語・中国語による受検」を可能とする。

V. スノースポーツの普及

- 1) 「安全で満足度の高いレッスンをする」「お客様にスノースポーツの素晴らしさ、楽しさ、健康に良いことを伝える」等、公認学校での日常の学校活動が大切であることを公認学校に周知をはかる。
- 2) 公認学校で取組めない分野を、協会全体の行事として、SIAらしさを発揮し、国民を対象に実施する。

以上

第40期総務部事業計画（案）

- 方針：①ガバナンスの強化
- ②財務体質の健全化
- ③国際化の推進
- ④支部との連携強化

<総務委員会>

(1) ガバナンスの強化

①啓蒙活動の強化

総会、理事会、研修会などすべての行事において、SIA 理念を唱和し啓蒙活動に努める

②規約規程を遵守した協会運営と会員の活動（時代に合わせて規程を見直す）

③「プロスノースポーツ教師の集団」としての誇りと責任

安全及び指導法の向上を図る（安全指導のガイドブックの配布及びセミナー情報の告知）

(2) プロスノースポーツ教師として誇りを持って仕事を続けられる組織と環境づくり

①他のスポーツ諸団体との友好親善関係を構築する

②会員の夏期の仕事情報を収集・告知

③非公認校是正にむけ諸官庁への働きかけを行う

(3) スノースポーツの普及

①SIA フェスティバルにおけるオーストリアのスキー技術講習会を一般参加者に対し実施する

(4) 少子高齢化社会へ対応した協会運営

①各部と連携して時代に対応した運営を行う

(5) 会員との連携強化

①ホームページの会員専用ページを作成し、会員に有効な情報を提供する

②顧問・参加からご意見を戴く場を年に一度設ける

③永年会員の表彰

(6) 会員資格の整備

①新資格制度を実施にあたり、円滑な運営のための対応を行う

(7) 50周年事業について

①記念式典・祝賀会を開催する

②記念誌を発行する＝広報部との連携

<財務委員会>

(1) 財務体質の健全化

①厳格な予算案作成

②年会費の自動振替化の促進…自動振替化 56%→60%を目指す

③予算執行状況の早期確認と対応

・毎週末、事業の執行状況、未実施事業の見通しを報告

④会費収入の増加…広報部と連携し、新規会員の増加（正会員・認定会員・法人賛助会員・個人賛助会員）

とともに、第41期（2019.10.1～2020.10.1）からの会費値上げを目指す

⑤個人賛助会員の会費を「寄付金」扱いに変更する

<国際委員会>

(1) I S I Aとの関係強化

①I S I A総会、理事会に参加し加盟各国との交流、情報交換を行い、必要な情報を会員に伝達

②環太平洋地域の親睦強化

(2) 国際環境の急激な変化への対応

①インバウンドへの取り組みを推進

②外国人有資格者の活用＝ビザ発給要件緩和への取り組み

③外国人の入会後の円滑な活動をサポートする

(3) 日本オーストリア友好150周年への協力

①オーストリアスキー教師をS I Aフェスティバルに招聘し、講習会・講演会を実施する

②オーストリアスキー教師が各地を巡回し、講習会を実施する

<支部委員会>

(1) 支部長会議の開催

①支部長会議関連のアンケート実施

各支部からの意見を検討して事業に反映

②支部長の理事会傍聴

支部との関係強化を目的として、支部長会議と理事会傍聴を併せて実施

(2) 本部支部間の連携強化

①支部の事業計画・予算案の報告、中間報告、決算報告の徹底

②支部事業に対して連携強化

③支部会費の見直し

総務部

定款の目的	事業内容	事業計画
1. スノースポーツ教師及び一般愛好者・青少年の育成と普及	1) 外国研修会への派遣	<ul style="list-style-type: none"> ■ I S I A開催行事に役員を派遣 ■ 海外研修補助金制度の継続実施
	2) 支部活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 支部長会議開催 <ul style="list-style-type: none"> ・支部長会議関連のアンケートを実施し、各支部からの意見を検討して事業に反映 ・支部との関係強化を目的として、支部長会議と理事会傍聴を併せて実施 ■ 本部支部間の連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・支部の事業計画・予算案の報告、中間報告、決算報告の徹底 ・支部事業に対して連携強化 ・支部会費の見直し
2. スノースポーツ指導及び技術並びに安全確保に関する研究	1) 保険加入	<ul style="list-style-type: none"> ■ 正会員・準会員に対する補償制度の実施（正会員スキー総合保障制度加入）
	3. 我が国を代表して国際スキー教師連盟 (ISIA) へ加盟	<ul style="list-style-type: none"> 1) 総会・大会への派遣 <ul style="list-style-type: none"> ■ インタースキーへ派遣 (2019.3 プルチリア・パノボボ) ■ I S I A総会へ派遣 (2019) 2) 会議への派遣 <ul style="list-style-type: none"> ■ I S I A理事会（年2回）への派遣 3) I S I A加盟国との交流 <ul style="list-style-type: none"> ■ I S I Aとの関係強化 <ul style="list-style-type: none"> ・環太平洋地域の親睦強化 ■ 国際環境の急激な変化への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンドへの取り組みを推進 ・外国人有資格者の活用＝ビザ発給要件緩和への取り組み ・外国人の入会後の円滑な活動をサポートする ■ 日本オーストリア友好150周年への協力 <ul style="list-style-type: none"> ・オーストリア教師を S I Aフェスティバルに招聘し、講習会・講演会を実施する ・オーストリア教師が各地区を巡回し講習会を実施する。
4. 目的を達成するための必要な事業	1) 啓蒙活動	<ul style="list-style-type: none"> ■ ガバナンスの強化 <ul style="list-style-type: none"> ・啓蒙活動強化として 総会、理事会、研修会などすべての行事において、SIA理念を唱和 ・規約規程を遵守した協会運営及び会員の活動 ・「プロスノースポーツ教師の集団」としての誇りと責任 ・スキー総合補償制度への加入推進 ■ プロスノースポーツ教師として誇りを持って仕事を続けられる組織と環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・他のスポーツ諸団体との友好親善関係を構築する ・会員の夏期の仕事情報を収集・告知 ・非公認校是正にむけ諸官庁への働きかけを行う ■ スノースポーツの普及 <ul style="list-style-type: none"> ・SIAフェスティバルにおけるオーストリアのスキー技術講習会を一般参加者に対し実施する ■ 少子高齢化へ対応した協会運営 <ul style="list-style-type: none"> ・各部と連携して時代に対応した運営を行う ■ 会員との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの会員専用ページを作成し、会員に有効な情報を提供する ・顧問・参加からご意見を戴く場を年に一度設ける ・永年会員の表彰 ■ 会員資格の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・新資格制度を実施にあたり、円滑な運営のための対応を行う ■ 50周年事業について <ul style="list-style-type: none"> ・記念式典・祝賀会を開催する (2018.11.16) ・記念誌を発行する＝広報部との連携
	2) 会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> ■ 理事会の開催 ■ 日本インタースキー委員会に委員を派遣 ■ 総務部会の開催
	3) 事業計画・予算編成	<ul style="list-style-type: none"> ■ 予算会議の開催 ■ 事業計画案の作成
	4) 予算執行状況の確認	<ul style="list-style-type: none"> ■ 財務体質の健全化 <ul style="list-style-type: none"> ・厳格な予算案作成 ・年会費の自動振替の促進…自動振替化 56%→60%を目指す ・予算執行状況の早期確認と対応（毎週末、事業の執行状況、未実施事業の見通しを報告） ・会費収入の増加 ・個人賛助会員の会費を「寄付金」扱いに変更する
	5) 会員の表彰	<ul style="list-style-type: none"> ■ 永年在籍の会員に対し総会において協会として表彰する
	6) 教材の作成	<ul style="list-style-type: none"> ■ インバウンドへの取り組みを推進…基本英語ガイドの作成とWEB掲載 ■ 教育部と連携し、フェスティバル招聘国の技術動画を制作

第40期 教育部事業計画（案）

○方針：「会員の指導力・技術の向上」

<資格委員会>

(1) スノースポーツ教師資格検定会

- ①新ステージⅡ・Ⅲ検定会を支部と連携して実施
- ②新ステージⅡ・Ⅲ検定会の試験のみフェスティバルで実施
- ③新ステージⅣの実技検定会はフェスティバルのみ実施
- ④新ステージⅢ・Ⅳ検定会の基礎理論講習を東京・代々木で12月4日（火）～6日（木）に実施

(2) イグザミナー認定会

- ①イグザミナー認定会をフェスティバルで実施

(3) I S I Aカード取得事業（G S L・山岳安全講習会）をフェスティバルで実施

<研修委員会>

(1) スノースポーツ全般の指導・技術の研鑽に努めるための事業

- ①指導力・技術向上を目的とした研修会を実施

(2) 山岳スキー関連事業

- ① I S I Aの山岳安全講習に対応した講習をフェスティバルで実施
- ②入門クラスの参加しやすい日帰りの研修会を実施
- ③登山ガイド(公益社団法人日本山岳ガイド協会)認定資格養成講習会の参加促進を図る

(3) 語学力向上のための研修会

- ①インバウンド対応のための語学研修会を実施

(4) 他団体で行われている事業に参加

- ①SBB(スキー・ビンディング・ブーツ取付け調整)認定整備技術者セミナー
- ②プロスポーツ指導者連絡協議会主催「プロスポーツティーチングセミナー」
- ③日本赤十字社主催の「救急法一般講習」及び消防署主催の「普通救命講習」
- ④公益財団法人日本スポーツ協会主催研修会

<技術委員会>

(1) スノースポーツ教師のレベルアップの為の教材作成

- ①指導力・技術向上を目的とした動画を作成しホームページにアップする
- ②次期教程を2019年11月に発行する

(2) デモンストレーター関連事業

- ①フェスティバルでデモンストレーター選考会を実施
- ②インタースキー及び新教程の内容をフェスティバルで発表（デモンストレーション）
- ③デモンストレーターを活用した広報活動

(3) デモンストレーター・イグザミナーの研鑽に努めるための事業を実施

- ①デモンストレーター合宿を実施
- ②イグザミナーセミナーを3カ所で開催

(4) インタースキー派遣デモンストレーター合宿を実施

(5) フェスティバルで技術コンテストを実施

<障がい者スキー委員会>

(1) 認定会と質向上を図る為の講習会

- ①認定会をシーズンはじめとフェスティバルで実施
- ②障がい者スキー指導講習会に役員を派遣
- ③知的障がい者に関する基礎知識講習会を実施

教育部

定款の目的	事業内容	事業計画
1. スノースポーツ教師及び一般愛好者・青少年に対する検定・認定	1) 各種検定会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ■スノースポーツ教師資格検定会 <ul style="list-style-type: none"> ・ステージⅠ検定会の実施（平成30.12～各支部） ・ステージⅠ検定のみ実施（平成31. 4.8 マウントレースイ） ・ステージⅡ基礎理論検定の実施（平成30.12.4～6 NYC） ・ステージⅡ実技検定の実施（平成31. 2～各支部） ・ステージⅡ実技検定の検定のみ実施（平成31. 4.8 マウントレースイ） ・ステージⅢ基礎理論検定の実施（平成30.12.4～6 NYC） ・ステージⅢ実技検定の実施（平成31. 4.7～10 マウントレースイ）
	2) 検定員の養成と認定	<ul style="list-style-type: none"> ■イグザミナー認定会 <ul style="list-style-type: none"> ・イグザミナー（新規・継続）認定会の実施（平成31. 4.8～9 マウントレースイ） ■I S I Aカード取得事業（親善GSL）の実施（平成31. 4.6 マウントレースイ） ■認定会と質向上を図る為の講習会 <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者スキー教師認定会（平成30.12 志賀高原／平成31. 4.7～10 マウントレースイ） ■山岳スキー関連事業 <ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人日本山岳ガイド協会認定の資格養成講習会の参加促進を図る
2. スノースポーツ教師及び一般愛好者・青少年の育成と普及	1) 各種研修会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ■スノースポーツ全般の指導・技術の研鑽に努めるための事業 <ul style="list-style-type: none"> ・指導力・技術向上目的とした講習会を各支部で実施（平成 30.12～平成 31. 3） ・デモ選強化セミナー（平成31. 4.2～4 マウントレースイ） ・ISIA カード対応山岳安全講習会（平成 31. 4.8～9 マウントレースイ） ・入門クラスの講習会（平成31. 5 2ヶ所） ■語学力向上のための研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド対応のための語学研修会を実施（東京&各支部 4ヶ所） ・実践中国語セミナー（平成31. 4.8 マウントレースイ） ■他団体で行われている事業に参加 <ul style="list-style-type: none"> ・S-B-B認定整備技術者セミナー（平成30.10月／平成31. 8月.9月） ・プロスポーツティーチングセミナー（平成30.11.12 NYC） ・日本赤十字社主催の「救急法一般講習」及び消防署主催の「普通救命救急」 ・公益財団法人日本スポーツ協会主催研修会
		<ul style="list-style-type: none"> ■デモンストレーター関連事業 <ul style="list-style-type: none"> ・各種デモンストレーター選考会をオープン参加で実施（平成31. 4.5～7 マウントレースイ） ■マスターズスキー技術コンテストをオープン参加で実施（平成31. 4.7 マウントレースイ） ■各種技術コンテストをオープン参加で実施（平成31. 4.4～5 マウントレースイ）
4. スノースポーツの指導及び技術並びに安全確保に関する研究	1) SOMの研究・伝達	<ul style="list-style-type: none"> ■デモンストレーター・イグザミナーの研鑽に努めるための事業を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・デモンストレーター合宿（平成30.11.25～30 韓国・フェニックススキー場） ・イグザミナーセミナー（平成12.3～4 札幌国際、平成30.12.6～7 箕輪、平成30.12.12～13 志賀高原） ■インタースキー派遣デモンストレーター合宿を実施 ■デモンストレーター関連事業 <ul style="list-style-type: none"> ・インタースキー及び新教程の内容をフェスティバルで発表（平成31. 4.7） ・デモンストレーターを活用した広報活動
		<ul style="list-style-type: none"> ■スノースポーツ教師のレベルアップの為の教材作成 <ul style="list-style-type: none"> ・指導力・技術向上を目的とした動画を作成しホームページにアップする ・次期教程を2019年11月に発行する
6. その他目的を達成するために必要な事業	1) 会議等への派遣	<ul style="list-style-type: none"> ■プロスポーツ指導者連絡協議会へ役員派遣 ■障害者スキー連盟へ理事派遣 ■岩手県障がい者関係行事へ役員派遣
	2) 会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> ■教育部会、各委員会の開催

第40期 学校部事業計画（案）

- 方針：①公認学校運営の向上と会員の働きやすい環境づくり
②安全指導の強化とスノースポーツの普及
③調査資料の収集と有効活用
④各種技術検定の普及強化

<学校委員会>

(1) 学校長研修会の開催

- ①健全な学校運営を目的として会期中に一回開催する。今期は東京に於いて実施（2018.11）
※来期はフェスティバルで実施（2020.4）

(2) 学校運営への協力

- ①公認校の継続および新規開校の支援
②入校者を対象に使用用具等の調査を実施し、賛助会員と公認校の関連強化を図る
③労災、賃金、インバウンド受け入れの調査と情報提供
④有資格者によるレッスンの徹底を目指し、制度改革を検討する
⑤学校部通信の発信

(3) 運営管理

- ①移動教室届け提出の管理を徹底

(4) 公認スキー学校での技術検定の普及強化

- ①各種技術検定の推進
・「ジュニア国際スキー技術検定」促進のためのポスター・
My Ski Book（日本語・英語・中国語）を制作・配布
・ジュニア国際スキー技術検定を含むキッズホームページについて企画立案する
②技術検定の普及上位校の表彰
・技術検定の普及に寄与した上位校を学校長研修会において表彰する
③検定促進の小冊子「挑戦!合格の道」改訂版を希望数に応じて公認校に配布する
④技術検定用紙および検定報告書は電子申告にも対応できるようにする

<安全委員会>

(1) 安全指導の徹底

- ①「安全指導のガイドブック」を制作し会員に配布
②安全用具（ヘルメット・プロテクター類等）の積極的な活用と普及（JSP ポスター配布等）
③スキー学校賠償責任保険への加入
④受講生の傷害保険加入を義務化する（41期の申請より実施）
⑤全国スキー安全対策協議会との連携
⑥FIS10 か条を参考に子供用安全マナー集を作成

学校部

定款の目的	事業内容	事業計画
1. スノースポーツ教師及び一般愛好者・青少年に対する検定・認定	1) 一般愛好者対象の各種技術検定の実施	<ul style="list-style-type: none"> ■公認スキー学校での技術検定の普及強化 ・各種技術検定の推進 <ul style="list-style-type: none"> 「ジュニア国際スキー技術検定」促進のためのポスター・My Ski Book（日本語・英語・中国語）を制作・配布 ジュニア国際スキー技術検定を含むキッズホームページについて企画立案する ・技術検定の普及上位校の表彰 <ul style="list-style-type: none"> 技術検定の普及に寄与した上位校を学校長研修会において表彰する ・検定促進の小冊子「挑戦!合格の道」改訂版を希望数に応じて公認校に配布する ・技術検定用紙および検定報告書は電子申告にも対応できるようにする
2. スノースポーツ教師及び一般愛好者・青少年の育成と普及	1) 教育研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ■公認スキー学校長研修会の開催（平成30.11.15 東京 NYC） ・健全な学校運営を目的として会期中に一回開催する。今回は東京に於いて実施 ※来期はフェスティバルで実施（2020.4 志賀高原）
3. スノースポーツの指導及び技術並びに安全確保に関する研究	1) 学校運営への協力	<ul style="list-style-type: none"> ・公認校の継続および新規開校の支援 ・入校者を対象に使用用具等の調査を実施し、賛助会員と公認校の関連強化を図る ・労災、賃金、インバウンドの受け入れの調査と情報提供 ・有資格者によるレッスンの徹底を目指し、制度改革を検討する ・学校部通信の発信
	2) 運営管理	<ul style="list-style-type: none"> ・移動教室届け提出の管理を徹底
	3) 安全指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・「安全指導のガイドブック」を制作し会員に配布 ・安全用具（ヘルメット・プロテクター類等）の積極的な活用と普及（JSPポスター配布等） ・スキー学校賠償責任保険への加入 ・受講生の傷害保険加入を義務化する（41期の申請より実施） ・全国スキー安全対策協議会との連携 ・FIS10か条を参考に子供用安全マナー集を作成
	4) 保険の加入	<ul style="list-style-type: none"> ・スキー学校賠償責任保険に加入
4. その他目的を達成するために必要な事業	1) 会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・学校部会議の開催
	2) 関連団体への協力	<ul style="list-style-type: none"> ・日本スポーツ用品工業協会・日本スポーツ産業振興協会等スキー製品に関する各機関に協力して活動する

第40期 広報部事業計画（案）

- 方針 ①一般愛好者へのスノースポーツの普及
②広報活動の推進
③震災復興に対する対応

<普及委員会>

- (1)「スノースポーツの活性化を図る事業」の実施
①一般愛好者を対象に、インタースキー派遣デモによる講習会を2月に実施
②一般愛好者が参加できるイベントをスノースポーツ専門誌及びWeb上に紹介して普及を図る
③全国の小中高生を対象にしたジュニア・技術コンテストを4月のフェスティバルで実施
④健康増進の推奨事業として
・「歩くスキー(ラングラウスキー)」を使った「スキーオリエンテーリング」のイベントを、公益社団法人日本オリエンテーリング協会と共催で4月のフェスティバルに実施
- (2) S I A 関連活動の紹介と普及
① S I A 関連の様々な活動を、スキー専門誌及びWEB上に紹介して普及を図る
- (3) その他事業活動を推進する為の活動
①「スキーの日」(1月12日)ミニ式典と特別講習会等の事業を実施
②「クリーンキャンペーン」を公認校のあるスキー場とフェスティバル会場で清掃活動を実施
③地球温暖化防止…地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE (=賢い選択)」へ参加
④アルペンスキーの普及支援として「メダリスト育成募金」を実施
⑤被災者の子供達へのレッスンを支援(南東北支部・西日本支部)
被災地の復興を応援するため、応援メッセージを公認学校のパンフレットとホームページ、協会の印刷物とホームページなどに掲載する

<広報委員会>

- (1) 会員及び一般向けに協会の活動情報を公開するため、機関誌の制作
①機関誌「S I A ニュース」を年3回(10月、1月、6月)発行
②ジュニア国際スキー技術検定を含むキッズホームページを作成する
③インストラクターの新規入会促進
④協会の活動状況、行事予定、競技会結果、最新情報等を、ホームページ及びFacebookで随時発信
⑤S I A 製作物(ポスター)デザインを会員及び一般より公募
- (2) 一般愛好者に対し、事業の広報・宣伝及び実施事業等の促進
①一般愛好者の事業参加を促進するため、S I A の理念、事業計画に基づき、スキー専門誌及びWeb上にタイアップ広告・宣伝記事を掲載
- (3) 賛助会員・プレスへの対応
①創立50周年記念式典で表彰するとともに祝賀会で懇親を深める
②新規入会の促進
③フェスティバル会場に賛助会員の展示ブースを設置し販売促進につなげる
④フェスティバルにおいて懇談会を開催し交流を図る
⑤一般愛好者の個人賛助会員への入会を推進…個人賛助会員をS I A ニュースで紹介、S I A ニュースの送付、各種イベントの案内送付
- (4) マーケティングの実施
①ホームページの充実をはかり、様々なコンテンツを拡張し、協会の認知を広める発信をする
②オフィシャルグッズ(デモウェア)等に「JAPAN Professional Ski」ロゴを採用して、協会のイメージを高めPR活動を図る
③賛助会員主催の展示会場においてS I A ブースを設置し、一般愛好者の情報を收拾し協会の活動に生かす

<物 販>

スキーをはじめとするスノースポーツの各技術に関する教程本、DVD等の教材並びにその他公益目的事業に関連する物品の製作・仕入れ、販売

- (1) 会員及び一般愛好者向けの教程本、DVD等の教材並びにワッペン、ネームプレート、オリジナルグッズ等の製作・仕入れ、販売
①公認スキー学校所属の会員に対し、ネームプレートを受注製作・販売(会員対象)
②フェスティバル記念Tシャツを製作・販売
③オリジナルグッズを製作・販売(受注生産)
④在庫している物品を継続販売

広報部

定款の目的	事業内容	事業計画
1. スノースポーツ教師及び一般愛好者・青少年に対する検定・認定	1) 一般愛好者対象の各種技術検定の実施	<ul style="list-style-type: none"> ■「スノースポーツの活性化を図る事業」の実施 ・一般愛好者を対象に、国際スキー技術検定の講習会&検定を2月に実施「SIA デモレッスン&メダルキャンプ」(平成31.2.23~24 菅平高原)
2. スノースポーツ教師及び一般愛好者・青少年の育成と普及	1) 一般愛好者対象の各種講習会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ■「スノースポーツの活性化を図る事業」の実施 ・一般愛好者を対象に、インタースキー派遣デモによる講習会を2月に実施「SIA デモレッスン&メダルキャンプ」(平成31.2.23~24 菅平高原) ・健康増進の推奨事業として ・「歩くスキー(ツグスキー)」を使った「スキーオリエンテーリング」のイベントを、公益社団法人日本オリエンテーリング協会と共催で4月のフェスティバルに実施(平成31.4.7 マウントレースイ)
3. スノースポーツの普及・発展のため競技会の開催	1) 青少年対象の競技会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ■「スノースポーツの活性化を図る事業」の実施 ・全国の小中高生を対象にしたジュニア・技術コンテストを4月のフェスティバルで実施(平成31.4.7 マウントレースイ)
4. その他目的を達成するために必要な事業	1) 広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ■SIA関連活動の紹介と普及 ・SIA関連の様々な活動を、スキー専門誌及びWEB上に紹介して普及を図る ■会員及び一般向けに協会の活動情報を公開するため、機関誌の制作 ・機関誌「SIAニュース」を年3回(10月、1月、6月)発行 ・ジュニア国際スキー技術検定を含むキッズホームページを作成する ・インストラクターの新規入会促進 ・協会の活動状況、行事予定、競技会結果、最新情報等を、ホームページ及びFacebookで随時発信 ・SIA製作物(ポスター)デザインを会員及び一般より公募
	2) 賛助会員・プレスとの協力	<ul style="list-style-type: none"> ■賛助会員・プレスへの対応 ・創立50周年記念式典で表彰するとともに祝賀会で懇親を深める ・新規入会の促進 ・フェスティバル会場に賛助会員の展示ブースを設置し販売促進につなげる ・フェスティバルにおいて懇談会を開催し交流を図る ・一般愛好者の個人賛助会員への入会を推進…個人賛助会員をSIAニュースで紹介、SIAニュースの送付、各種イベントの案内送付
	3) 社会への貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ■事業活動を推進する為の活動 ・「スキーの日」(1月12日)ミニ式典と特別講習会等の事業を実施 ・「クリーンキャンペーン」を公認校のあるスキー場とフェスティバル会場で清掃活動を実施 ・地球温暖化防止…地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE(=賢い選択)」へ参加 ・アルペンスキーの普及支援として「メダリスト育成募金」を実施 ・被災者の子供達へのレッスンを支援(南東北支部・西日本支部) 被災地の復興を応援するため、応援メッセージを公認学校のパンフレットとホームページ、協会の印刷物とホームページなどに掲載する
	4) マーケティング事業	<ul style="list-style-type: none"> ■マーケティングの実施 ・ホームページの充実をはかり、様々なコンテンツを拡張し、協会の認知を広げる発信をする ・オフィシャルグッズ(デモウェア)等に「JAPAN Professional Ski」ロゴを採用して、協会のイメージを高めPR活動を図る ・賛助会員主催の展示会場においてSIAブースを設置し、一般愛好者の情報を収集し協会の活動に生かす
	5) 会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> ■広報部会議の開催
	6) 物販	<ul style="list-style-type: none"> ■会員及び一般愛好者向けの教程本、DVD等の教材並びにワッペン、ネームプレート、オリジナルグッズ等の製作・仕入れ、販売 ・公認スキー学校所属の会員に対し、ネームプレートを受注製作・販売(会員対象) ・フェスティバル記念Tシャツを製作・販売 ・オリジナルグッズを製作・販売(受注生産) ・在庫している物品を継続販売